

社会・政治
経済

科学界 (會)

雑誌

年刊費

ミル「政治経済」
(1875)

新南報の口々に
地方自治の進行を
止むを告ぐ。
(1876)

モンテスキュー「万法精
理」
(1877)

ルソー「民権論」
(1877)

丹羽「日本民族論」
植本「民情一新論」
(1879)

斯氏教育論
(足振八五)
(1880)

新社会の兩派
論争の中心
ルソー「民権論」(中江)
(1882)

労働組合
(1884)

15代
天皇の
御成婚
(1885)

假令の両派
(1887)

三宅「日本人」
(1888)

1889
(1889)

1890
(1890)

大分県
代官(山本)

各地
の情勢

西南の戦役
減租

第一回勸業博覧会

陸軍士官学校、看護学校
(産科学校に改組)
の結果

新教育令制定

国会期成同盟会
立憲政体同盟会(伊藤)
官立工部学校(民間産業
学校昇格)

北條道官有物部下件
自由党在党(群馬県一揆)

国会を閉鎖せしめ下る
立憲改進黨 板垣退蔵等
東洋社会党(禁止)
自由民権運動の中心(福島事件)

陸軍大学

小農民の土地所有
金銀の兌換(鉄庫の閉鎖) 加増の増徴
東京大学 第一回医学部卒業
生発表

新教育令改正
新官制内閣

帝立大学令

保安条例

帝立憲法公布

海軍大学
帝立憲法公布
教育勅諭

東洋社会党
南成子社 東京大学
防衛、教育、内務(長官本部)

伊藤、板垣、板垣、板垣
の争い

伊藤、板垣、板垣、板垣
の争い

東洋社会党
東京大学
東洋大学 第一回医学部卒業
生発表

理学協会 雑誌

東京大学 第一回医学部卒業
生発表

森有礼
(1891.120-229.2月)

教育界 緊張す

海軍大学

社会内閣研究会

科学会雑誌

算学新誌(植口藤次郎) (十八号 廃刊)

数理学雑誌(上野清) (五九号 廃刊) 15年11月

数理学雑誌(京都大学) 廃刊
小学者24号 (京都) (八号 廃刊)

「譯語会」

数理学雑誌 (20号 廃刊)

数理学雑誌 (44号 廃刊)

数理学雑誌 (15号 11月)

数理学雑誌 (19号 廃刊)

数理学雑誌

東京数理学雑誌

算学通信雑誌
数理学雑誌 (若林三郎 板垣退蔵)

数理学雑誌

数理学雑誌

数理学雑誌

数理学雑誌

数理学雑誌

数理学雑誌

数理学雑誌

数理学雑誌

数理学雑誌

数理学雑誌

数理学雑誌

数理学雑誌

数理学雑誌

文部省「百科全書」

数理学雑誌(上野清) (五九号 廃刊) 15年11月

数理学雑誌(京都大学) 廃刊
小学者24号 (京都) (八号 廃刊)

「譯語会」

数理学雑誌 (20号 廃刊)

数理学雑誌 (44号 廃刊)

数理学雑誌 (15号 11月)

数理学雑誌 (19号 廃刊)

数理学雑誌

東京数理学雑誌

算学通信雑誌
数理学雑誌 (若林三郎 板垣退蔵)

数理学雑誌

数理学雑誌

数理学雑誌

数理学雑誌

数理学雑誌

数理学雑誌

数理学雑誌

数理学雑誌

数理学雑誌

数理学雑誌

数理学雑誌

数理学雑誌

数理学雑誌

山本「代官論」
和洋の同化

山本「代官論」

農村恐慌

経済恐慌

數字書

自内書

頁四十九

午部 勹

共益社 (改定會)

卷四書院

十五年から^{二十}~~十~~まで。算学から物理まで一通

3. 新組合 (アウテ・イム) 中西信定氏

嘉王令堂 第13会 (23年1月)

社說「書子法家所謂治者社會之何？嗚呼！肉囊之大，誰能所司。

世に歌記著述を以て筆と云ふアルハ是レ一種ノ文章者トシテ
清者社会の觀察を以て空ニ戯戯ニ筆を盡すモノナリト云フベシ

以上又是「演藝上已47部」, 又「情」, 出於「者」, ... 今「職」造,

倭重ヲ何、困苦ニナク何●、人情ニナク陰ニ民内一般、若シテ者

仲内入り、 η 、 $\epsilon_1 \sim \epsilon_n$ 子若、少^{おほ}増^ふすにたりてハ我輩ノ命力ニ付与せしむ。

[illegible]

著记若1, 完若2, 著记乙(得 $\sin E$), 或乙乙, 解, 乙得 nE

衣箱1 歳時要記31 又、民尚書林、カレ刊行心得サハ

元ノ系ヲ替メテ我が教団界ノ如ク「盡力アリ」と是レナリ」

十三年に専修学校、十四年に明治法律学校、東京女子
校、十五年に東京専門学校等。

「東京女子学校の創立は明治十四年なり。當時我が社
会に政治上の改革に急務を感ずるに、政治の事は政治
家も善なり共には政治的素養の乏しきあり、之を授けようとの
学校を陸続として設立せられたる、白紙の紙の方面は既に
満ちてしまふ、官立の大学と構へては之を占められず……
東京大学女子部を除く各大学等は、当初伊藤博文等と
して創設せしめられ、明治十一年より同十三年の間に
二十有数の学校を創せり、之に我が日本最初の女子大学
校なり。……明治十三年同志各大学の輩も幸ひや、陸続と
立ち、政治の第一歩として、友の熱心の嚮へ立ちて、増進
を促し、政治の思想を養ふの端を授けんとせし計
畫せり、時恰も政治の改革の時運に際し、大衆集
会の制が極めて盛んに、学校若くは官衙に職を奉
ずるものは、公衆の道徳は命令せざるに上り、政に關する
ものも亦亦自由を許すなり。種々奔走周旋を経て、
此の計畫は竟に畫餅に帰し、是に於て慎重協力の
の結果、計畫は一擧して学校に立歸り、公衆の
影響を以て同志の能力を培養せんとす。……
と云ふことなり。」(東京女子学校五十年史、一三頁)

神田若平藏

賞勳局

漢官官
將軍少將

良創本赤

修史館

一等編修官

增本明錄

陸軍省

八等虫伍土

神保長致

九子

校本長不谷

十四号

川北朝陽

十五壽

五郎膝

大屋 工兵科

福田半

海宇若

六尋出仕

連橫 吳 寧

十壽虫仕

世川重平

中川将行

十安亭少將

兼行定

毒相

大佐

柳猿抱

中位

伊苑 雋吉

中尉

大伴兼行

文部省

少車輔

神田孝平

同奉。

4
16

虞姬梁師範子林

「文明開化の風が島に吹きすさく、明治十六年
十一月二日」

米子通信 22号 (22年1月)

● 松田甲 「明治二十一年の追憶」

「...田舎... 好風！ 吾子の如く我邦の当時世界に飛出
た。今より数十年前、昔は：町と村と、女行多し、男
子多し... 已に世に、近代の行路、風景は白
き、新蓋の現象、明治十年前後は：まだ、
明治十一年の都会は：近頃は、漸く
去年の明治二十一年は：旅の、都会、地は：
+11ト」

(数)

わが国の科学教育の方向は既に明治五年の
学制により、西洋数学の採用に決定してゐるので
あり、また「文明開化」の風潮や、政府の「科学
の移植」の方針により、わが数学界の
如何なる方向に進むかは、~~明~~ 豫想し得るであ
る。しかし自由民権思想のあふれ高
調な左からたゞ、明治二十年代の初めに
き数学の普及を欠いて得たであらうか。そして三
十年代に於て、^{早くも}わが近代的数学確立の地盤を成
すにまだ十分な働きにつけて得たであらうか。

2. 小論

~~自由民権~~ 自由民権思想の(直接間接に)日本数学界
の向上に與つた影響を、具体的に研究するに
ある。数学の自然的成長と自由民権思想の
~~歴~~ 史の中からは、その影響をも分析す
ることは、困難な問題には相違ないが、我々
既に十数年前から多少この問題に觸れて来た
ので、ここに一度 ~~概~~ 欠解を纏めて見ることに
した。

174

農村 恐慌

237

紙幣整理が完了した明治18年からの近代的産業
の長足の発展は、口内外における市場の擴大程を
を超える生産力を産み出し、生産過剰を惹起し始め
た。二十二年より既に株式の暴落、物價下落が起つた
が、翌二十三年には恐慌状態が極度に達し、一万半圓は
前年の山価のため昂騰して、必然的に金融の逼迫を招来
した。その結果の恐慌が起つたのである。(224頁)

明治10年代の社会 教育雑誌の代表

(上野隆長) 上野隆「教育雑誌」第12号(明治十二年六月十七日)

「……童生五六名到るアリ、

抑も何、心よ。……」

学会の出版

~~中々~~ ~~研究~~ の超等の中には 淨事の所受の
みでなく、 宗教的分子や 討論 なども。
（註）

一般的普及を目的とする会も多々ある。
（註）

明治13年8月 上野協會主 君田廣長 謹啓

寺尾書 (帝大附校, 東京文芸長, 昭和8)
外書院 [若江令堂 第6令 224 6月]

外書

[若江令堂 年6余 224 6月]

僕私天亦君ヲ修ムニ、先ガ父ヲ修メトノ端
 ニ至リ、スニモテアリマス。……自分ノ思想ヲ以テ養
 子、他人ノ思想ヲ以テ養フモノノカガ、ト云ハサマシ、
 何レモ皆人ノ生ニ必要ノモノアリマス。其ガ故ハ父
 母ヲ養フ事ニ修メサレバカサレバ、其ノ面ハ、
 又此ノ先ガ父ヲ修メサレバ、

然るに、我々の文章を專に修めしめしむるのみ、是の外
 は何もいふことがあらず。アガールの根柢大抵、モノカカリ、語
 句、はあじふ通り、我々の純正なるに通用するところ
 あり。…… 借し通用する、固より純正なるに通用す
 べし、純正なるを以て、通用する、自然の理なりと思ふ人

アリマセウガ、決シテサウハ(テフアセシ。 糸正なる=要ス 節ハ
(横書き也)
電=「テ・タク・ロシ」ガ・テ・フ・ケ・ト・ス、ナ用なる=「イレ・タ・ウ・ロシ」
(横書き也)ガ・入用テ・ル…… 備・備・ヲ・種、登・造、順・序・ニ・由・テ
見・テ・モ・分・ル(通リ)、 「イレ・タ・ウ・ロシ」ハ「テ・ジ・ウ・ロシ」ヨ 一層・高・高、
又・ノ・テ、 之・ヲ・適・用・ス・ル・ニ、 定・然= 断・然・テ 研・究・セ・ス・ル・ナリマセ。

ソレハ= 大用教子ノ意味ヲ知ラウト云フハ、... 是也
現定教子ニ通入ルヲ教子ヲ修メテハハハハハセヌ

前：個人の社会利益を重んじ、社会利益を軽視する傾向がある。この社会利益を重んじる傾向は、広く知られるべきである。そのためには、個人の利益と社会利益の両方を重視する必要がある。そのためには、個人の利益と社会利益の両方を重視する必要がある。そのためには、個人の利益と社会利益の両方を重視する必要がある。

ナ用おろが 他ノ厚利ニ立入カラ ソレゾ 社会ノ定章ヲ破ル
テノミナリ。 夫レ故ニ 我ヲ修ム 若カ「余」 純正君子
修ムルハ 世ニヨイ、ナ用おろ、ヤリシテモヨロシト 之ヲ修ム
ルニマセシ。 ……

今日 限不
何事ヲ為シテモ、
之ヲ修メタナリ。
如クナリ制裁ヲ
受ムコトヲ考ヘテ、
ナリトハ、無~~限~~無~~限~~テ
アリマス、只、我ハ
面^面白^白ニモテ、^外外^外ニ
テ、我ヲ為シ、^外外^外
目的ナリ、只、我ヲ
テ、カ、目的^外ニ、ト
イフ様ナリ、^外外^外
之^外外^外ニ、^外外^外
ソレナリ、^外外^外
アリマス、

「算学」第22号
(明治1249月27日)

洋算と和算の向題

松本 樹

「世ノ洋算家ニ告ク 算学堂主人」

「... 洋算ノ一ツニハ 毎々セシヨリ 本邦ニハ

山田 爲三

第38号 (明治1345日)

「和算堂ニハ 洋算用ノハ 山田 爲三」

